

人間社会学域 地域創造学類

【授与する学位】学士（地域創造学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
人間社会学域は、人間及び人間社会に関する普遍的真理の探求とともに、激変する複雑な社会状況の下で、人間及び人間社会が直面する諸問題の解決に貢献寄与するための教育を行い、社会に貢献しうる自発的な課題探求能力や解決能力を持ち、かつ多文化共生時代にふさわしい理解力と判断力を持った個性的な人材を養成することを目的とする。 地域創造学類は、総合性と専門性を並行して修得できる教育カリキュラムの中に少人数の演習・実習・インターンシップなどを取り入れ、問題解決のための実践的なスキルの向上を目指す。地域創造学類で学ぶ4年間を通じて、地域の自然的・文化的資源、伝統、人材、資金、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、住民の健康・福祉・環境・産業・文化を発展させるとともに、新たな価値創出によって地域を再生し活性化するため、質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を持った人材を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 地域創造学類では、現実の社会から提起される現代的諸課題に目を向け、それらを解決できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会、グローバルな共生社会、しなやかで折れない地域、将来にわたって持続発展する地域を実現するため、地域創造学の専門的知識と技術を修得し、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに意欲と責任をもって参加できる人材を、金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）に立脚して育成する。また、海外の地域創造情報を自ら英語で収集し発信できる人材を育成する。本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、次の学修成果を達成した者に学士（地域創造学）の学位を授与する。	【教育課程編成に関する基本的考え方】 地域創造学類では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】 地域創造学類は、地域の自然、文化、住環境、人材、産業、社会関係などを専門的に分析把握し、自治を活かした地域固有のスタイルで、持続可能で質の高い個性ある地域を計画・設計・政策立案する能力を育成します。 プログラムの選択は、2年次終了までに本人の問題関心と将来像及び学業成績等考慮して決定します。
【学生が身に付けるべき資質・能力】 1. 知識・理解 ・人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための地域創造学の専門的知識を修得している。 ・理念目標・社会的責任：対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。 ・現状理解・把握：対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。 ・実践論・対処方法：対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。 2. 技能・表現 ・調査・分析方法：地域の諸課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。 ・伝達技能：他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力と他者を繋げ合意形成に導くコーディネーション能力を身に付けている。 3. 思考・判断 ・地域や社会の諸問題を生活から制度・政策まで多角的に分析し考察できる。 4. 関心・意欲 ・地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。 5. 態度 ・地域で暮らすすべての人に共感と尊敬をもって接することができる。	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 1. 教育内容 (1) 学類基礎科目群では地域を知る基礎的な方法やリテラシーを学ぶ (2) 地域課題科目群では地域とその諸問題を理解し、専門的知識を修得する (3) 地域創造科目群では学生自身の将来像を意識させ、地域づくりのリーダーとしての素養を修得する (4) 演習及び実習科目群では地域を多面的に理解する調査や分析の方法を修得する (5) 地域創造学特別演習では多様な地域課題に対処する能力を高め、総合性を担保する (6) 卒業論文では修得した知識と方法を統合的に発揮して自ら発見した地域課題に向かい合う 2. 教育方法 (1) 学生の能動的学習を積極的に促すアクティブラーニングの手法を取り入れる (2) 地域課題解決に実践的に取り組むための現地実習やインターンシップを配置し、フィールドワークによるプロジェクト学習や問題解決学習の手法を導入した実践的学修機会を用意する (3) 外国語による地域創造に関する情報の収集と発信機会を提供する 【学修成果の評価】 (1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 (2) 学士課程での学修成果は、「卒業研究」を含めた修得単位数によって行なう。 (3) 「卒業研究」の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。	【求める人材】 ・大学での地域創造学の学修に必要な基礎的学力を有している人 ・地域創造力を修得するために、本を読み、文章を書き、地域に出かけ、能動的に学修する努力を惜しまない人 ・誰もが生き生きと安心して暮らせる地域づくりとグローバルな共生社会の発展に貢献したい人 ・海外の情報に積極的にアプローチしようとする意欲と能力を有している人 【選抜の基本方針】 ・一般選抜 基礎学力に加え、文系・理系科目両面の基本的科目である国語・数学・外国語を評価します。 ・KUGS 特別入試（総合型選抜） 基礎学力に加え、口述試験により地域創造に関わる学習への意欲や事象への関心、大学入学後の主体的な学習・研究への計画や積極性、授業を理解するための基礎知識や思考力・判断力・表現力、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせて総合的に評価をします。 ・帰国生徒選抜 小論文課題から、地域創造に関わる課題に対する理解力・思考力・表現力等を評価し、成績証明書（調査書）及び口述試験により、大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせて総合的に評価をします。 ・国際バカロレア入試 口述試験では、地域創造に関わる課題への多面的な質問を行い、基礎的知識、思考力・表現力、勉学意欲や地域創造学類への適性を総合的に評価します。 ・私費外国人留学生入試 口述試験では、地域創造に関わる課題への多面的な質問を行い、学修に必要な日本語能力及び英語能力、勉学意欲や地域創造学類への適格性等を総合的に評価をします。
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】 地域創造学類では、専門的総合的に地域創造学を学ぶことから、高等学校で学ぶ教科全般について文系・理系科目両面にわたり理解しておくことを求めます。 また、地域の諸課題を調査・分析し、政策立案できる能力の修得を目指す前提として、地域社会に対して強い関心を持ち、自ら主体的に情報を集め、自分なりの考えをまとめられるようにしておくことを望みます。